

R5.9月

治療 開始日	治療 終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
9月1日	9月10日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに浮遊物多量、白濁認め 体温36.4℃ 検尿：亜硝酸(+) 蛋白(+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤10日間投与 クラリスマイシン (200) 1錠 1×1 ※浮遊物・白濁減少するまで暫く 抗生剤継続Dr指示
9月11日	9月15日	5日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 検尿 亜硝酸 (2+) 尿蛋白 (2+) PH(8) 体温38.9℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシン(100) 3錠 3×1 発熱時 アセトアミノフェン (0.4g) 1包頓用
9月22日	9月26日	5日	尿路感染症	病院受診 定期的に尿管スト交換管理中 バルンカテーテル留置中 尿量減少尿混濁 体温38.4℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシン(100)3T/3×1 経過観察へ
9月10日	9月14日	5日	尿路感染症	KT39.4℃ 悪寒 (+) 検尿：亜硝酸 (+) 蛋白(2+) 潜血(-) 白血球(2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 (ニューキノロン系) 1日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 抗生剤変更 (ペニシリン系) 4日間投与 オーグメンチン (250) 3T 3×1 発熱時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ
9月22日	9月26日	5日	尿路感染症	9/14頃より発熱 (不明熱) 検尿：亜硝酸 (2+) 蛋白(+) 潜血(-) 白血球(2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシン(100)3T 3×1 経過観察へ
9月25日	9月27日	3日	尿路感染症	KT38.3℃ 検尿：亜硝酸 (+) 蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球(2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 熱発時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ
9月28日	9月30日	3日	尿路感染症	KT38.8℃ 検尿：亜硝酸 (2+) 蛋白 (±) 潜血 (-) 白血球(2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 Rp)ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 熱発時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ

R5.10月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
10月1日	10月10日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに浮遊物多量、白濁あり。 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球 (+) 体温36.2℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 10日間投与 クラリスロマイシン (200) 1錠 1×1 浮遊物減少にて経過観察へ
10月1日	10月10日	10日	尿路感染症	バルンカテーテル留置中 尿管ルートに浮遊物時々見られる。 検尿 亜硝酸 (+) 尿蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球 (-) 体温36.0℃ Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤 10日間投与 ノルフロキサシン (100) 1錠 1×1 浮遊物減少にて経過観察へ
10月18日	10月25日	8日	尿路感染症	KT38.1℃ 検尿 亜硝酸 (2+) 蛋白 (-) 白血球 (-) PH(6) Dr診察 尿路感染症の診断 抗菌剤8日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 解熱剤アセトアミノフェン0.4g頓用対応 経過観察へ
10月12日	10月21日	10日	右下肢蜂窩 織炎	Kt:36℃台 右大腿部～右下腿周囲にかけて、発赤・ 熱感・疼痛あり。 Dr診察：蜂窩織炎の診断 抗生剤 10日間投与 オナールチン(250)3T 3×1 経過観察へ
10月12日	10月18日	7日	尿路感染症	KT38.7℃ 検尿：亜硝酸 (+) 蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球 (+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤7日間投与 Rp) ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 熱発時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ
10月18日	10月25日	8日	尿路感染症	16日Kt38.4℃。アセトアミノフェン投与。検尿：亜硝酸 (+) WBC (2+)。 18日Kt38.4℃。アセトアミノフェン投与。Rp) ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 で開始。19日Dr診察尿路感染症の診断にて7日間追加へ
10月23日	10月27日	5日	尿路感染症	KT38.2℃ 検尿：亜硝酸 (-) 蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 Rp) ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 熱発時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ
10月23日	10月31日	9日	尿路感染症	KT38.2℃ 検尿：亜硝酸 (-) 蛋白 (2+) 潜血 (-) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤9日間投与 ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 2日間 オナールチン(250)3T 3×1 7日間 熱発時アセトアミノフェン0.4g頓用 経過観察
10月23日	10月27日	5日	尿路感染症	KT37.9℃ 検尿：亜硝酸 (H) 蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球 (-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 Rp) ノルフロキサシン (100) 3T 3×1 熱発時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ

R5.11月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
11月13日	11月17日	5日	尿路感染症	バルーンカテーテルの詰まりあり 流出不良にて交換。KT37, 9℃ 検尿：亜硝酸(-) 蛋白(+) 潜血 (+) 白血球 (3+) Dr診察：尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 RP) ピクシリンS配合錠(250)3T3×1 熱発時アセトアミノフェン投与 経過観察へ
11月15日	11月22日	8日	尿路感染症	15日朝オムツパット内にコアグラまじりの血尿あり。検尿：亜硝酸 (1+)、蛋白 (3+)、潜血 (3+)、白血球 (2+)。 Dr診察にて尿路感染症の診断。 抗生剤8日間投与 ノルフロキサシ(100)3T 3×1 経過観察へ
11月29日	11月30日	2日	尿路感染症	2～3日前より排尿時痛 (+) との愁訴 検尿：亜硝酸 (2+)、白血球 (2+)。Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 ノルフロキサシ(100)3T/3×1 経過観察へ

R5.12月

治療開始日	治療終了日	期間	所定疾患 傷病名	処置等の内容
12月4日	12月6日	3日	尿路感染症	KT39.4℃ Spo2 72% BP52/28 検尿：亜硝酸 (+) 蛋白 (+) 潜血 (-) 白血球 (2+) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤3日間投与 ピクシリンS配合錠 (250) 3T 3×1 熱発時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ
12月7日	12月16日	10日	蜂窩織炎	両下肢下腿に熱感、腫脹、浸出液、 発赤あり Dr診察 蜂窩織炎の診 抗生剤10日間投与 ピクシリンS配合錠(250)3錠3×1 経過観察へ
12月15日	12月20日	6日	尿路感染症	KT37.5℃ 検尿：亜硝酸(-) 蛋白 (+) 白血球 (2+) 潜血(-) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤、胃腸薬6日間投与 ノルフロキサシ(100)3T レバミピド(100)3T 3×1 3T 経過観察へ
12月27日	12月31日	5日	尿路感染症	KT38.2℃ 検尿：亜硝酸(+) 蛋白 (Ⓜ) 白血球 (2+) 潜血(±) Dr診察 尿路感染症の診断 抗生剤5日間投与 ノルフロキサシ(100) 3T 3×1 熱発時 アセトアミノフェン0.4g 頓用 経過観察へ